

特集

特集 2 さらに活発に！ アイデア豊かな「カエル！活動」 明日への大きなヒントとなる働き方の改善活動

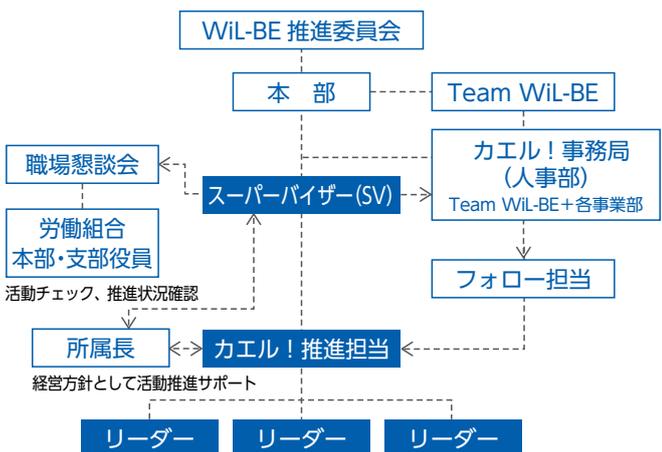
2017年4月にプロジェクトを発足させ、オカムラの従業員が自分たちの意思によって働き方のありたい姿を実現してきた「カエル！活動」。現場の地道な改善活動はさらに大きく広がり、業務改善や意識改革の良い取り組みは、全社へ行き渡るように展開されました。行動を変える、意識を変える、会社を変える、そして早く帰ることで「ワークインライフ(Work in Life)」…ライフ(人生)にはさまざまな要素があり、その中のひとつとしてワーク(仕事)があるという考え方を実現する。そんな「カエル」ための活動がますます花開き、実を結ぼうとしています。



「Wil-BE」でWork Ruleを仕組みから見直す

オカムラの一人ひとりが「ワークインライフ」を自らデザインし、自身が思い描くLifeを実現できる社会へとドライブしていく活動、「Wil-BE(ウィル・ビー)」。この働き方改革の中で、Work Ruleをその仕組みから見直し、一人ひとりがいきいきと働ける社内の仕組みをつくる取り組みの一つが「カエル！活動」です。各部門・拠点ごとにチームをつくり、定期的なミーティングで課題を抽出して施策を決定し、実行しています。

「カエル！活動」推進体制



年ごとに活動拠点が広がり 2019年度には全拠点へ



「カエル！活動」では、活動の進め方や全社展開施策に関するガイドラインを発行し、全社での推進・フォロー体制を整備。組織に沿ったグループごとに旗振り役を置き、研修会を行い活動を進める際のポイントを共有しています。また、月1回、全社掲示板に社内広報「カエル！NEWS」を掲載し、具体的な活動事例を紹介。さらには、2019年度の活動内容や成果を振り返り2020年度につなげるため、各チームが施策進捗と成果を発表する報告会を開催しました。この中で優秀賞を獲得した3チーム(千葉支店、赤坂インターシティAIR拠点、業務改革部)の事例について紹介します。

「カエル！活動」スケジュール

- 2019**
 - 5/16(木) カエル！推進担当研修
 - 5/30(木)～6/19(水) カエル！活動 キックオフ (各チーム)
 - 10/18(金) カエル！2019 折り返しターンワークショップ
- 2020**
 - 1/7(火)～1/28(火) カエル！活動 一次報告会(各所)
 - 2/21(金) カエル！活動 全社報告会

特集

事例1 習慣の殻を破り、整理整頓された活気のあるきれいなオフィスへ

オカムラの千葉支店では、「ふさの国からピーナッツ」という活動名に、あらゆる殻を破って新しい働き方を発信する想いを込めました。自分の殻を破り、より結束力の強い組織へ。そして、慣れや習慣の殻を破り、活気のあるきれいなオフィスへ。「働く環境を整えること」をテーマに、データ、モノ、環境の順に整理しました。基本的に情報は支店のMicrosoft Teams*に掲載される運用を定着させ、ほとんどの情報を全員が平等に共有化。「この申請書はどこ?」「確か資料があったはず」といったデータ探しの時間が削減されました。

*Microsoft Teamsは、Microsoft Corporationの商標または登録商標です。

VOICE

一人ひとりの「働きがい」が、仕事の効率化や経済成長につながればうれしいです。



オフィス営業本部
千葉支店 業務担当
篠原 久仁子

私たちのように11名という小規模な支店では、まず全員の活動のベクトルを合わせることが大切で、そこが難しくもありました。また、一人ひとりの役割が占める割合が高いので、個人のモチベーションをキープすることや、意見の出やすい職場にすることが、総合力を高めるためには大切です。SDGsの目標の中には「働きがいも経済成長も」という項目がありますが、単に給与水準を平等にするとか休暇を取りやすくするだけではない「働きがい」が、結果的に効率の良い仕事や、経済成長への効果につながるのではと思っています。



事例2 自分たちの意思で、意識改革を行い、ありたい姿を実現する

オカムラの13部門約150名が入居する赤坂インターシティAIR拠点では、「CAMP 人が集いつながる場所」という活動を推進しました。ルーチン業務と付帯業務の効率化(スマート化)を促す「スマ活」、チャレンジ業務を行うための土壌づくり(コミュニケーション)を目的とした「コミ活」、組織としてのモチベーションを高めようとした「モチ活」など、多岐にわたって展開。ファミリーイベントなども開催し、家族からも好評を得ています。



VOICE

「まずはやってみよう」という風潮が、施策の実現につながっています。



オフィス営業本部 外資法人支店
営業2課
山田 修大(左)
※コミ活リーダー
金融法人営業部 第二支店
営業課
前田 諒介(右)
※モチ活リーダー

「自分たちの意思で、意識改革を行い、ありたい姿を実現する」を活動目標に取り組んできました。「コミ活」では、他部門との知の融合をめざしたワークショップの開催、Teams質問ボックスの立ち上げ、内線表への業務情報追加による活用などを推進。「モチ活」では家族にオフィスを見学してもらうファミリーイベントや全カラジ体操、さらには小さなことから「褒める文化」をつくり出すための表彰活動も行いました。「まずはやってみよう」という風潮が、さまざまな施策の実現につながり、オフィスに活気をもたらしていると感じます。

事例3 ペーパーレス化やフォームの統一化などを推進

オカムラの業務改革部では、「1020(いちまるにまる)」という活動名で、会社全体への浸透を込めた活動を推進。そのコンセプトは「悩まず 活き活き 勇気をもって チャレンジ&シェアする」です。この活動で、業務改革部内のシェアードセンターの多能工化への取り組みや、会社全体に関わる請求関連の申請書類などのペーパーレス化、押印請求書のフォームの統一化など、さまざまな取り組みが実現しました。

VOICE

受け身ではない積極的な姿勢や発想力を大切にしていきたいです。



業務改革部 鎮西 啓

生産性の向上、全社への貢献を意識した活動の中では、小さいことでも成し遂げると達成感があり、さらに次に進もう!というサイクルを回せたと感じます。また、ワークショップなどでは自分では思いつかない発想に刺激を受け、部内には女性も多く、「やる」と決めたら推進するパワーも感じました。このような発想力や積極性が浸透すれば、社内の風土や雰囲気にも大きなプラスになると信じています。